

令和5年度「キッズ・キッチン MORE」 参加者募集

幼児の料理教室「キッズ・キッチン」は、一般的な子ども料理教室とは異なり、「料理を学ぶのではなく、料理で学ぶ」がコンセプトの教育プログラムです。

本物の包丁や火の管理も含めた料理全般を幼児が主役になって行い、食に関する幅広い知識や技術は勿論、「達成感」「満足感」「協調性」「自立心・自律心」等の獲得、さらに、魚を料理することで「食べることは命をいただくこと」の体得など、心の教育を重要視しています。

そしてこの度、園単位で参加していただく「キッズ・キッチン基礎編」とは別に、個人でご応募いただく「キッズ・キッチン MORE」を開催することとなりましたので、下記の通りご案内いたします。

「キッズ・キッチン MORE」は、「キッズ・キッチン基礎編」と何が違うの？

- ・少人数制 定員は8名で、スタッフは参加者一人一人とじっくり向き合います。
- ・3回連続実施 1週間の間隔で、3回の体験を積み重ねます。
- ・魅力ある教材 新鮮な旬の食材や子ども専用の調理器具の他、「野菜カード」やスライド等、工夫された教材を使い、食材の育ち方や食文化などを幅広く学びます。
- ・道具の貸し出し 希望者には調理器具を貸し出しし、家庭での反復学習を応援します。

「キッズ・キッチン MORE」実施について

日 時	1回目 2月25日(日) 10:00~13:00 2回目 3月 2日(土) 10:00~13:00 3回目 3月 9日(土) 10:00~13:00	※原則3回とも参加です。
	※各回の詳しい内容は次ページをご覧ください。	
場 所	御食国若狭おばま食文化館 キッチンスタジオ(福井県小浜市川崎3丁目4番)	
対象年齢	市内外の年長児 定員8名	
応募期間	1月22日(月)~2月5日(月)の期間に、下記までお電話にてお申し込みください。 ※応募多数の場合は抽選	
参加費	1回 2,000円(3回合計6,000円)	
その他	保護者の方のご見学は自由です。	



《参 考》 「キッズ・キッチン」3つのパターン

- | | |
|-------|-------------------------------|
| ①基礎編 | 市内全園年長児対象
5月~9月ごろまで各園順番で実施 |
| ②拡大編 | 個人参加 令和6年度の開催は未定 |
| ③MORE | 個人参加 年2クール実施 |

◆問い合わせ&応募宛先

御食国若狭おばま食文化館(福井県小浜市川崎3丁目4番)

TEL: 0770-53-1000(9:00~18:00 但し水曜日は休館)

FAX: 0770-53-1036

Email: syoku-machi@city.obama.lg.jp

各回の内容

※内容は変更になる場合があります。

1回目 2月25日(日) 10:00~13:00 ・身支度 ・自己紹介 ・米と野菜の知識 ・炊飯 ・出汁とは ・料理の道具 ・包丁と火 安全ルール ・いろいろな切り方 ・卵の割り方 【献立】 ごはん 具だくさん味噌汁 卵焼き ・配膳 ・箸使い ・お茶碗洗い ・ふりかえり	2回目 3月2日(土) 10:00~13:00 ・身支度 ・海の生き物の知識 ・魚のからだ研究 ・料理の道具 ・魚のさばき方 【献立】 いわしのかば焼き丼 わかめとふわふわ卵のお吸い物 ・配膳 ・「いただきます」と「ごちそうさま」の意味 ・金子みすゞ「大漁」 ・お茶碗洗い ・ふりかえり	3回目 3月9日(土) 10:00~13:00 ・身支度 ・日本の行事食 ・縁起物の意味 ・誰かのために作る 願いを込めて作る 【献立】 巻き寿司 あさりのお吸い物 手づくり豆腐 ・配膳 ・ゲストへのおもてなし ・お茶碗洗い ・ふりかえり ・修了メダル
---	---	---

※プロセスを大切にするため、各回とも献立はあえてシンプルにしています。

保護者の声（これまでの「キッズ・キッチン」参加者アンケートより）

- ・家に帰って「今日は子どもだけでご飯作った」と自慢していました。とても達成感があつたようです。
- ・新鮮な驚きがたくさんあり、刺激になりました。子どもに怪我をさせないコツや工夫をこっそり教えてほしいです。
- ・何でも大人の「指示待ち」をする子でしたが、自分からやりだすようになりました。
- ・登校を嫌がり休みがちでしたが、キッズ・キッチンに参加して自信が持て、登校できるようになりました。
- ・ひとりでできたことで自信をつけ、夕食を家族に自慢して作りました。親の方も「手を出さずに見守ること、信じて出来たらほめること」の大切さを学びました。
- ・みんなと一緒にだと普段は嫌がること（魚を触るなど）にも挑戦しようという姿勢が見られ、成長に繋がると思いました。
- ・里芋の胡麻和えが面白かったようで、家で「お母さんは何もしないで」と言って3回も作ってくれました。
- ・いろいろなことに興味を持つようになって、「これは何?」「これはどうやって作った?」など、よく質問するようになりました。
- ・食卓で、魚や野菜の名前を覚えてくれるようになりました。魚の鼻の穴の数や耳の話もしてくれました。
- ・「包丁お休みの場所」を私（母親）に注意するようになりました（笑）（「包丁お休みの場所」は安全ルールのひとつ）
- ・以前から評判を聞いていましたが、想像以上に素晴らしい活動で、心から感動しました。
- 1回の体験でも、「自分はあんな事、こんな事ができた。自分はすごいんだ。」と自信をつけたようです。
- ・私（母親）が料理していると、自然に「ぼく手伝おうか?」と言ってくれるようになり、涙が出てきそうになりました。
- ・子どもは勿論ですが、「口出しせずに見守る」という私（母親）の経験に、とても意味がありました。
- ・チャレンジがたくさん詰まった教室で、小さいながらも「ぼくは頑張った」という気持ちを自分でも感じているようです。
- ・「なんかやることあったら言って。ぼくもやるから。」と自分から言うてくれるようになりました。



外部評価の一例

- ・「地域に根差した食育コンクール」特別賞（農林水産省外郭団体2003）
- ・「毎日・地方大臣賞」奨励賞（毎日新聞社2006） 他
- ・NHK「きょうの料理プラス」、NHK Eテレ「すくすく子育て」、NHK Eテレ「福祉ネットワーク」等で特集番組として放送
- ・2015ミラノ国際博覧会出展 日本館にてイタリア在住の子どもを対象にキッズ・キッチンを実施した他、半年間の会期中、日本の優良食育事業として外国語で紹介